

## 公民科における生徒の発表・発言を主体とした授業

公民 現代社会 理数科・第1学年  
石川県立金沢泉丘高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校の生徒は高い学力を有し、ほぼ全員の生徒が国公立大学の進学を目指し、日々の学習に励んでいる。各教科の授業に対しても予習をきちんとした上で、各教科の課題意識を持ち授業に臨んでいる。

しかし、公民科の授業は、教師による講義中心で、生徒にとっては受身的な授業になりがちである。そこで、学習指導要領において、その目標に「現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する。」や、指導上の配慮事項に「学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現させるよう留意する。」とあることから、今回の事例に示した「生徒の発表・発言を主体とした授業」を数年前から取り入れている。

特に、本校は平成15年度にスーパー・サイエンス・ハイスクール（以下SSH）の指定を受け、理数科の生徒は、特色あるカリキュラムや講演会、野外実習、課題研究等を通じ、科学的なものの見方や考え方を身につけ、学習の成果を論理的に発表することを2年次までの目標としている。この目標達成への一つとして、理数科1年生の授業「現代社会」（SSHの特例により後期のみ週2回開講）においても、自ら考え学ぶ手法として、生徒が調べて発表する授業形態をとることとした。

なお、理数科の生徒が、前期の授業「情報」で学んだ、プレゼンテーションソフト操作やスライド作成の技法は、本授業においてもプレゼンテーション能力の向上に大いに役立っている。

### 2 実践内容

#### (1) 目標

- ① 現代社会に対する関心を高め、課題を主体的に追究する。
- ② 課題と自己との関わりに着目し、多角的・多面的に考察する。
- ③ 追究し考察した過程や結果をわかりやすく工夫して発表する。

#### (2) 実施単元

「第3章 日本国憲法と民主政治」の「世論と政治参加」以降の内容（20時間分）

#### (3) 指導上の工夫点（視点）

- ① テーマに対する意欲・関心を高める工夫
  - ・全生徒は、各授業の2週間前までに「質問予習プリント」を記入し、提出する。
  - ・発表グループは、回収した「質問予習プリント」を受け、それに対する回答を準備する。
  - ・教師は、質問事項をまとめた「質問一覧」を作成し、授業の冒頭に全員に配付する。
- ② 適切に発表するための工夫
  - ・発表グループと事前検討会を設け、「レジュメ」の作成および発表方法等の指導を行う。
- ③ テーマに対する理解を深める工夫
  - ・発表後に、生徒が内容確認や疑問解消ができるよう質疑応答の時間を設ける。
  - ・テーマに関しての重要語句や最新動向について、教師が補足説明を行う時間を設ける。
- ④ 生徒が自己の学習改善につなげる工夫
  - ・全生徒が「授業発表評価用紙」に発表に対する評価を記入する。
  - ・発表グループは、評価の結果を受けて今後の参考とする。

B-1 質問予習プリント

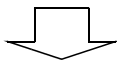
B-2 質問一覧

B-3 評価用紙

### 3 指導の実際

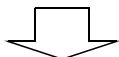
#### (1) 生徒への事前説明 (1時間)

- |  |                      |
|--|----------------------|
| ① 発表形式の授業を行う意義                           | ② 発表する際の留意点          |
| ③ 教師による模擬授業                              | ④ グループ編成 (1グループ4名程度) |
| ⑤ 講義担当項目の決定 (1グループあたり教科書2ページ分、1グループ2回発表) |                      |



#### (2) 各授業前

- |   |
|---|
| ① 全生徒が「質問予習プリント」を記入・提出→教師が「質問一覧」を作成                 |
| ② 発表グループが「レジュメ」を作成。質問の回答を考える。                       |
| ③ 事前検討会……発表グループと教師とで、発表内容の検討を行う。(約1時間)<br>→「レジュメ」完成 |



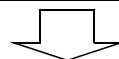
#### (3) 各授業 (計20時間)

- |                    |
|--------------------|
| ① 「レジュメ」配付         |
| ② 発表グループによる講義(25分) |
| ③ 質疑応答 (10分)       |
| ④ 教師による補足説明(12分)   |
| ⑤ 評価用紙の記入(3分)      |



#### (4) 各授業後

- |                   |
|-------------------|
| ① 発表グループが評価用紙を集計  |
| ② 教師による発表グループへの指導 |



#### (5) 年度末

- |  |
|--|
| 全グループの発表終了後、アンケート実施<br>(自己評価と授業方法についての意見等) |
|--|

C-1 指導案

C-2 レジュメ例

C-3 スライド例

### 4 成果と課題

#### (1) 現代社会に対する関心の高まり

- 授業前に「質問予習プリント」を記入することで、授業テーマに関する問題意識をもって、授業に臨むことができ、内容も理解しやすいとの声が多い。特に、自分が出した質問に対し、どんな回答をしてくれるのかを楽しみにしながら発表を聞いている生徒も多く、聞く態度の育成にもつながった。
- 配付された「質問項目一覧プリント」を見て、友人の問題意識の高さに驚いた生徒が多い。より高い問題意識をもって教科書や資料集を読む必要性を感じている。生徒の向上心を喚起させるものとなっている。

#### (2) 主体的な学習活動の醸成

- テーマについて、教科書はもとより、市販されている参考書や関連の書籍、さらにはインターネットを活用しての幅広い調査など、かなりの時間をかけており、多角的・多面的な考察が行われている。
- 発表資料の作成にあたって、わかりやすいスライドの作成のみならず、発表用の詳しいメモの作成など、様々な工夫をするなど積極的な姿勢が見られた。なお、発表後の“達成感”も強く、良い経験となったようである。
- 一方、原稿作成や発表がテスト直前や部活動の試合前、他教科の課題などと重なると負担が大きく、今後の課題である。

#### (3) 授業に対する積極的参加

- 質疑応答の時間では、仲間の発表であるためか、より興味がわき積極的に質問が出された。「自分たちで授業を創っている」という意識をもつようになった。
- 評価用紙に良かった点を必ず含めて記入させることで、発表した生徒は自信をもって、より前向きにその後の学習に取り組むことができる。また、評価した生徒は自分が担当する発表をより良いものにしようという意識をもつことができる。